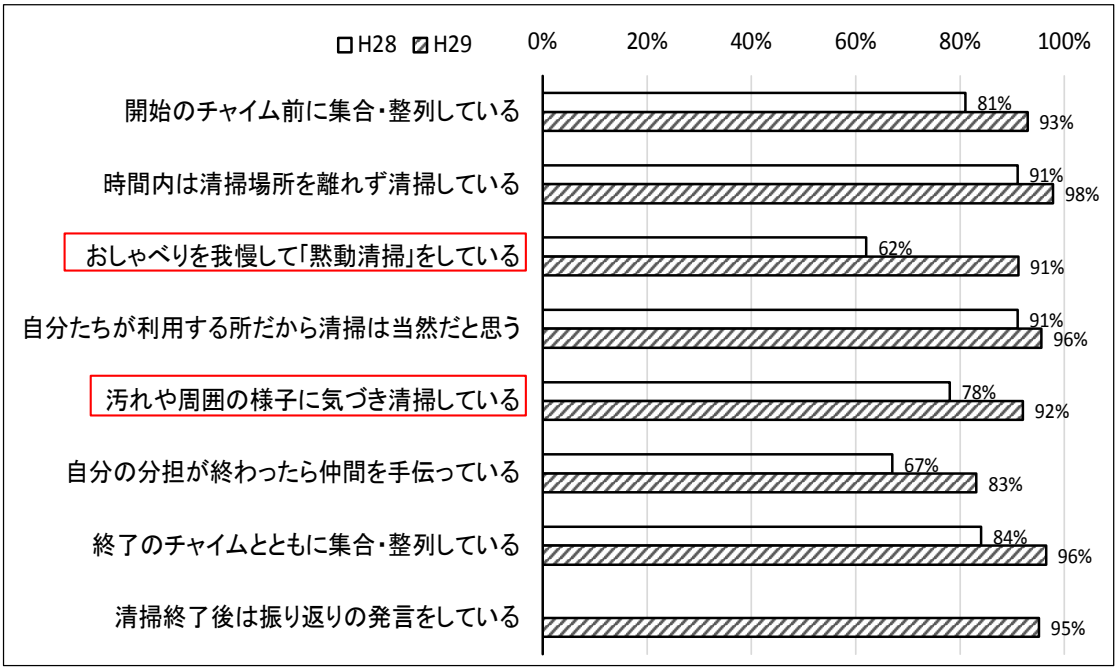

不退転

第151号
東江中学校
校長　神元　勉

清掃に関するアンケート

上のグラフは，昨年度との比較です。全ての項目で，改善していることがわかります。特に，「おしゃべりを我慢して…」と「気づき清掃」に顕著に表れています。これは，今年度から始めた『黙動清掃』の着実な成果です。

また，２学期から始めた縦割り班の取組により，「①我慢する心②感謝する心③気づきの心④支え合う心」が育てば，学校もみんなの心も磨かれ，『美しい東江中学校』を実現できるに違いありません。

インフルエンザの予防には！

インフルエンザ予防の基本は、「マスク、手洗い、うがい」です。また、感染拡大を防ぐには、「こまめな換気」が有効です。

実行委員は全員が本校出身。2016年に途絶える危機を乗り越え，本校出身者が中心となり，今でも続いています。光文字「親」は投票で決めたといいます。先輩達の取組を誇りに，今後も末永く引き継がれることを願います。

琉球新報 2018年1月8日

名護の銭ケ森 光文字は「親」

新成人が設置

【名護】毎年名護市の新成人が市の銭ケ森に漢字一文字を飾る「光文字」が7日、新成人によって設置された。今年の漢字は「親」＝写真。名護の街を見渡す銭ケ森に「親」の字が輝いている。光文字は2月1日午前3時まで点灯される予定だ。「お世話になった両親や先生、地域の大人に感謝の気持ちを示したい」との思いから、光文字を「親」にした。

琉球新報
2018年1月8日

金口木舌

名護市の市街地を見下ろす山の斜面。電球で巨大な一つの文字を作る「光文字」が7日ともされた。今年の文字は「親」。学校の先生や地域の人を含め、自分を育ててくれた人たちへの感謝を込めた▼光文字は市内の新成人が毎年設置、年明けの風物詩となってきた。2015年で終了予定だったが、東江中出身者が中心となり続けてきた。地域の協力はあるが、あくまで主役は新成人。資金づくりや必要な申請など自分たちでやらねばならない▼寄付を呼び掛け、市内を回る中で「毎年楽しみにしている」「今年は何の文字をやるの」と期待する人の多さを感じたという。光文字を続けたいと説明すると「ありがとう」と礼を言う人もいた▼「最初は伝統とか、自分たちの誇りのためにとか考えていた」。リーダーの一人は言う。「多くの人と会ううち、意識が変わった。皆のために名護を明るく照らしたいと思うようになった」▼取り組みは、新成人が一歩成長する機会にもなっているようだ。設置場所の銭ケ森は神聖な山とされる。現場に入る前に一礼したり、ごみを残さないようにしたりと気を配る▼きょうは「成人の日」。新たに大人の仲間入りした若者たちは、この日の気持ちを忘れず、今度は自身が「感謝」を受けるような出会いをつくってもらいたい。成人の先輩たちは、その手本となる自覚を忘れずに。